古民家だより
No.32
令和3年(2021年)6月28日(月)
越谷市教育委員会　生涯学習課

歴史の散歩道

雨の多いこの時期にもわずかな晴れ間があります。古来、この晴れ間を“五月晴れ”と言い慣わしてきました。そんな日には梅の実を干したり、溜まった汚れ物をまとめて洗濯したりして、貴重な時間を利用したのでしょう。今はエアコンや乾燥機が発達して便利になりました。空いた時間には、密にならないように用心しながら、ちょっと散歩するのは如何でしょう。瓦曽根溜井周辺の史跡・旧跡の一部をご紹介します。越谷市HPではこの「古民家だより」バックナンバーや市域各地の新旧写真、指定文化財史料等が　越谷市→シティプロモーション越谷ってこんなとこ→歴史文化　からご覧いただけます。(スマホでもご覧になれます)

A　伏越（ふせこし）

葛西用水が元荒川の下を交差して通っています。これを「伏越」と言います。元は葛西用水が元荒川に合流する形で繋がっていましたが、大雨の時などは逆流したので、逆川とも呼ばれています。昭和35～41年(1960～66年)の分離工事で現在のようになりました。

B　建長元年の板碑

市域で最古の板碑です。板碑は中世～近世初頭の供養塔です。建長元年(1249年)の銘があります。来歴は不詳です。

C　越ヶ谷御殿跡

徳川家康が鷹狩りに来た折に宿泊する御殿があったと伝えられている所です。伏越辺りから元荒川が天嶽寺、久伊豆神社の北西側を通っていた時代です。明暦の大火(1657年)で江戸城が焼けた後、この御殿は解体されて江戸城再建に使われたそうです。

D　「相扶共済」の碑

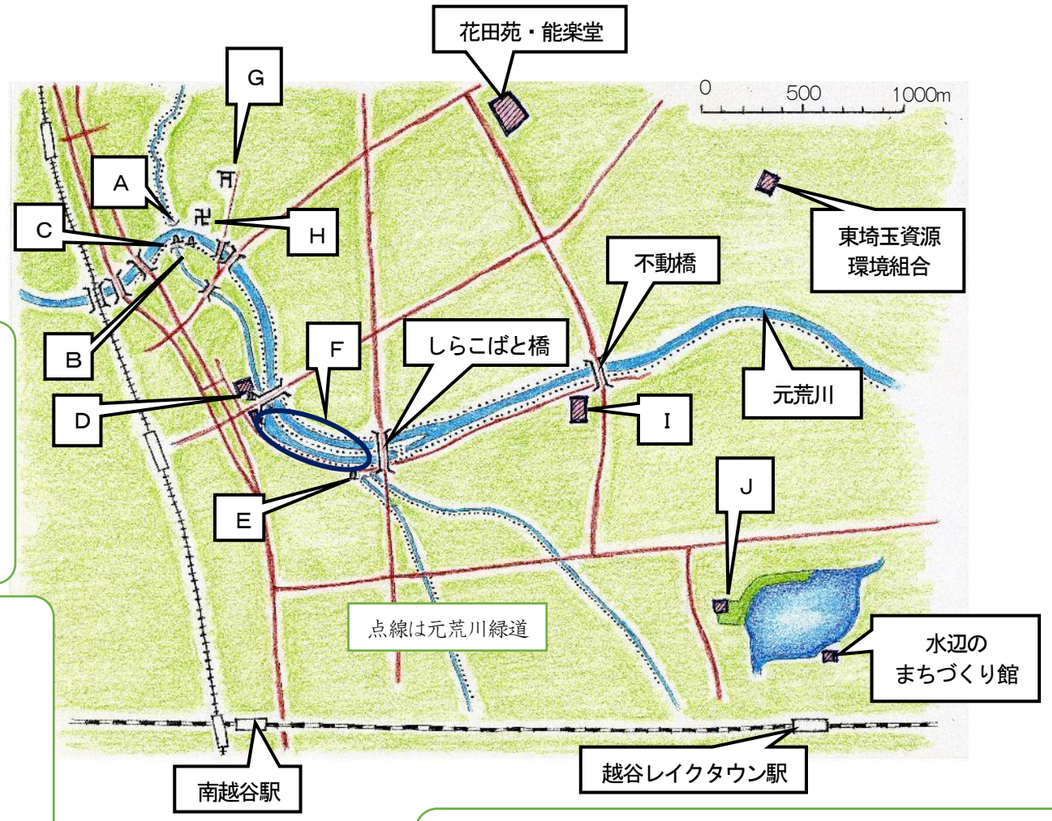
(越谷市HP「古民家だより」No.26をご参照下さい。)

国民健康保険法は昭和13年(1938年)に制定されましたが、旧越ヶ谷町ではこれにさきがけて昭和10年(1935年)に「越ヶ谷順正会」がその仕組みをスタートさせました。市役所新本庁舎前には、その思いを伝える石碑があります。

E　瓦曽根溜井防水碑

谷古田領元圦近くの公園に大きな石碑があります。明治23年(1890年)8月末の大水害の様子を記しています。市域北東部は特に被害が多かったようです。

この水害では防水に関して村同士の利害対立が生じて、その争いの中で一人の巡査が殉職しました。



G　久伊豆神社

長い参道を進んで行くと本殿の手前に樹齢200年余りの藤があります。境内には三之宮卯之助の力石や土井晩翠歌碑、埼玉県指定文化財のフジなどもあります。

周辺7村の総鎮守で、江戸時代には四町野村(現宮本町)の迎摂院の別当社だったことから、当社の祭礼では宮本町の人々が白装束で神輿を担ぎます。

H　天嶽寺(てんがくじ)

文明10年(1478年)開山、天正19年(1591年)に朱印地を与えられた寺院です。江戸時代には越ヶ谷町全体の寺としての存在で、塔頭もいくつかありました。

当寺院はこの地の開発領主であった会田氏の菩提寺であり、俳諧師の越谷吾山の墓もあります。

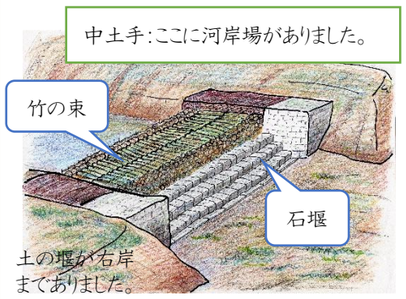
I　大聖寺(だいしょうじ)

(越谷市HP「古民家だより」No.16をご参照下さい。)

天平勝宝2年(750年)創建の市域最古の古刹です。奈良東大寺毘盧遮那仏(大仏)造立の中心だった良弁僧正が相模国(現神奈川県)大山に来た折に作った不動明王像の一体が大相模の地に移され、不動堂に祀られたのが始まりとされています。大聖寺北側の土手沿いの道は古代・中世の奥州道で、武士や庶民の信仰を集めたそうです。往時には周辺にいくつもの塔頭がありました。

パネル展示「中村家の女性たち」7／9～11
中村家を支えてきた4人の女性を紹介します。

F　溜井と河岸場(越谷市HP「古民家だより」No.24をご参照下さい。)



石堰想像図

今のしらこばと橋の辺りには元荒川の堰が設けられ、新平和橋との間は瓦曽根溜井と呼ばれました。そこからは複数の用水路が田畑を潤しました。溜井と元荒川を分ける中土手には河岸場が設けられました。河川に造られた港です。ここには高瀬舟が往来しました。10t位の荷が積めた長さ10m前後の大きさだったそうです。肥料(干鰯、下肥など)や米、菜種油、灰、味噌などが運搬されました。

この辺りは五街道の一つ、日光道中とも接する地域なので、政治経済の拠点でもあったと思われます。堰は近世初頭に設けられましたが、寛文4年(1664年)、その一部が石組の堰になりました。昭和50年(1975年)頃までは石堰の一部が残っていました。

J　旧東方村中村家住宅(越谷市指定文化財)

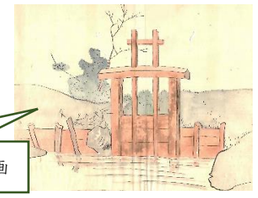
当住宅は安永元年(1772年)建築で、年代確認できる建物では越谷市で最も古いものです。長い間に所々修理やリフォームされ、昭和48年(1973年)に寄贈されました。5つの棟が合わされて造られています。門は薬医門という形式です。

中村家の来歴

当家の家譜(この冒頭部分はその写しが当館受付棟に展示)によれば、房総の武士・千葉氏の流れをくむ一族だったので平姓です。戦国期には太田道灌の家臣だったそうです。近世にはこの辺りの東方村の名主を務めました。

幕末～明治初期の中村家当主

子どもの頃から学問に励んだ重貞は名主役を務める傍ら寺子屋で教えました。明治6年(1873年)には近隣の寺子屋も合わせて「培根学校」を設立しました。後の大相模小学校の前身です。


当家の女性が女学校時代に描いた日本画

昔を伝える展示室

市域での遺跡発掘調査の様子や出土品等を展示しています。→増林中妻遺跡(3世紀後半)、見田方遺跡(6世紀後半)等